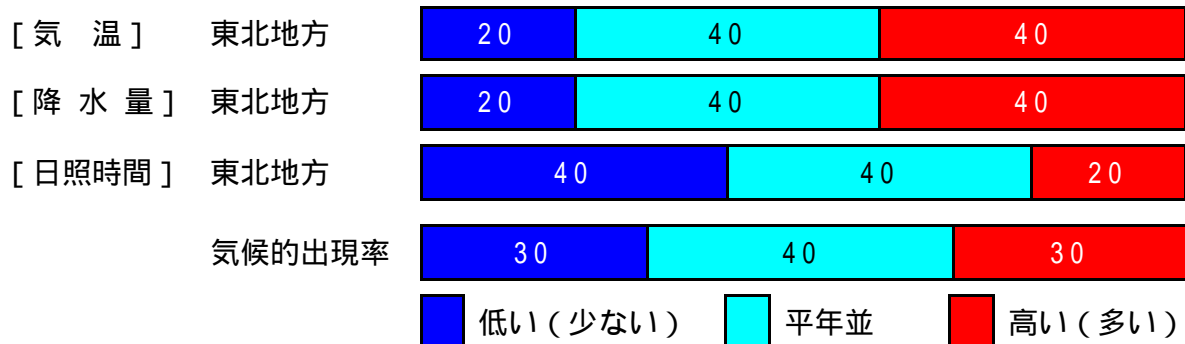


## 東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：10 月 30 日～11 月 29 日）

平成 11 年 10 月 29 日 仙台管区气象台

### 1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



[ 気 温 ]: 東北地方は「平年並」か「高い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「低い」の確率は 20％と小さい。

[ 降 水 量 ]: 東北地方は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「少ない」の確率は 20％と小さい。

[ 日照時間 ]: 東北地方は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「多い」の確率は 20％と小さい。

### 2．予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう 1 か月

東北地方は、低気圧や高気圧が交互に通り、天気は周期的に変化するでしょう。低気圧の通過後は一時冬型の気圧配置になりますが、長続きしないでしょう。

この期間の平均気温は平年並か高い見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約 12 日、東北太平洋側で約 19 日です。

各予報期間の天候の特徴

1 週目…………… 31 日頃は強い寒気の影響で天気が崩れ、日本海側北部で雪の降る所があるでしょう。また、期間の中頃にも気圧の谷の通過で天気の崩れる日がある見込みです。その他の日は高気圧に覆われ概ね晴れるでしょう。なお、詳細は週間天気予報を参照して下さい。

平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約 4 日、東北太平洋側で約 5 日です。

2 週目…………… 天気は周期的に変化するでしょう。

(11 月 6 日～11 月 12 日) 平均気温は高い見込みです。

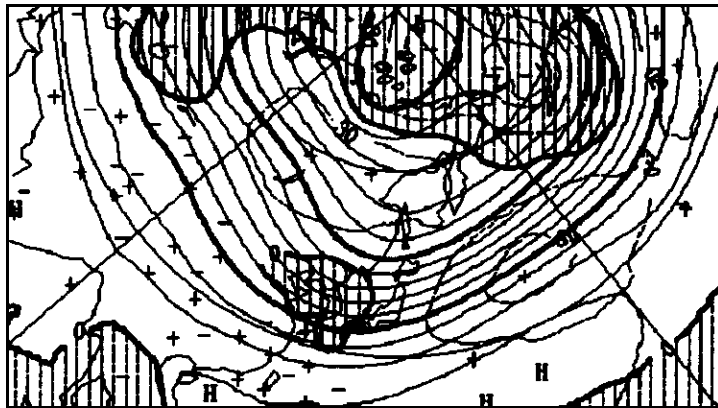
平年の晴れ日数は東北日本海側で約 3 日、東北太平洋側で約 4 日です。

3～4 週目…………… 天気は周期的に変化するでしょう。低気圧の通過後は一時冬型の気圧配置になりますが、長続きしないでしょう。

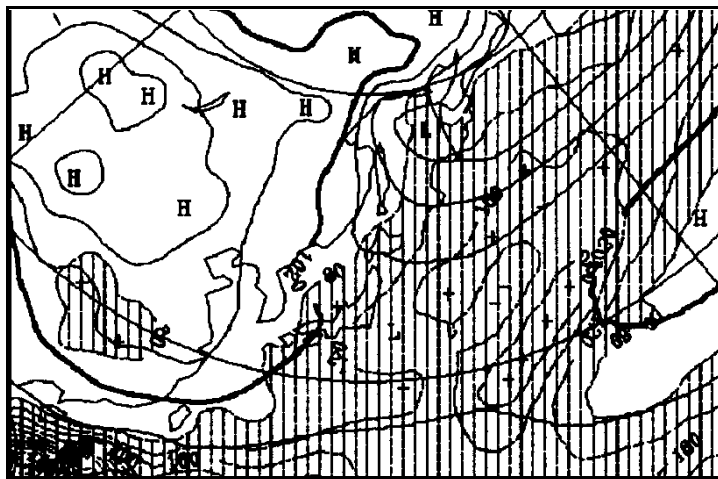
平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約 4 日、東北太平洋側で約 9 日です。

## 予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



月平均の 500hPa 高度・偏差  
（等高度：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差）



月平均の地上気圧と降水量  
（等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上）

### ・ 500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近は日本の東海上に中心をもつ正偏差に覆われる。一方、黄海付近は負偏差となる。流れはゾーナル<sup>注1</sup>で、西谷<sup>注2</sup>傾向を示す。このため、基本的に天気は周期変化するが、低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある見込み。週別(図略)では、1 週目は日本付近から大陸東岸にかけて負偏差域が広がり、寒気の影響を受け易いが、2 週目以降は再び正偏差におおわれる。

注1) ゾーナル：偏西風の南北の蛇行が小さい状態。低気圧や高気圧が順調に東進し、天気は周期的に変化しやすい。

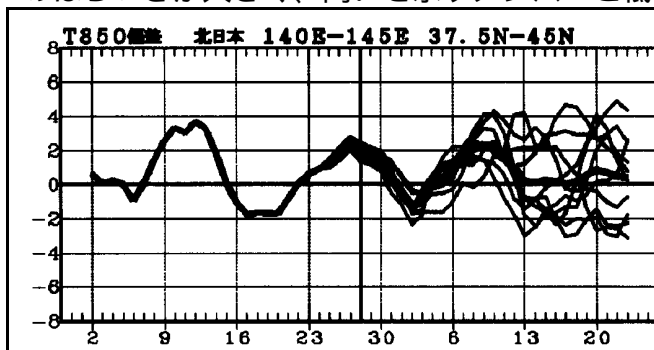
注2) 西谷：上空で日本の西側が気圧の谷となり、南から暖かく湿った空気が入りやすい。

### ・ 地上気圧と降水量

月平均でみると、まとまった降水域に対応して本州南岸から三陸沖へ進む低気圧が予想される。日本付近に特徴的な気圧配置は見られないので、基本的に天気は周期変化する。ただ、大陸には高気圧、オホーツク海には低気圧があって、一時的には冬型の気圧配置も現れる見込み。

## 3．北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温は、アンサンブルメンバーの平均でみると、1 週目は週半ばに平年を下回り平年並、2 週目は高い、3 週目以降平年並に戻る予想。ただ、2 週目後半からメンバーのばらつきが大きく、高いを示すメンバーと低いを示すメンバーに割れる。



北日本 850hPa 高度（上空約 1500m）での気温偏差の実況と予想

縦軸：気温偏差（℃） 横軸：日付

発表日以降の細線は各アンサンブルメンバーの予想値、太線は平均値。

注)・資料の内容を他の要素により修正して予報を組み立てることがあります。

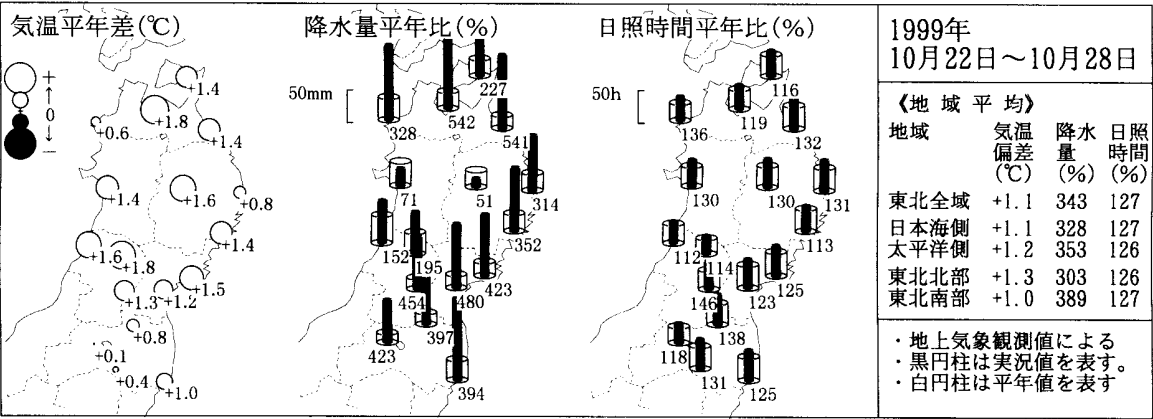
・850hPa の気温は、地上の気温と必ずしも対応しないことがあります。

注：1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラつき具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4．最近1週間（10月22日～10月28日）の天候の経過

この期間は、23日に寒冷前線の通過により東北日本海側で曇りや雨となったほかは、中頃まで移動性高気圧に覆われ概ね晴れた。しかし、27～28日にかけては発達した低気圧が列島沿いをゆっくり通過したため、東北地方では暴風となり、東北太平洋側を中心に大雨となって各地で大きな被害が発生した。

平均気温は東北地方で偏差が+1.1 と平年より高かった。降水量は期末の低気圧による降水で平年より多くなり、東北日本海側で 303 %、東北太平洋側で 389%となった。日照時間は東北地方で 127%と平年より多かった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）